

FRIENDS

 **The Friendship Force of Saitama** 会報 第64号(2005)

バルト三国の一つラトビアから16名 2005年度受け入れ

交換委員長 岸田節子

5月11日から18日までのラトビア・リガクラブ受け入れは、私にとって特別印象に残る交換になりました。EDとして年明けから準備を始めたものの、何をどうしていいのか気持ちの整理がつかず、不安に押しつぶされそうになりながら、時間だけは確実に過ぎていきました。

まあ、何とかなるだろうとひらき直り、成田空港で迎えたアンバサダーは16人(女性9人、男性7人)、10代から60代と巾がありました。歓迎の気持ちと長旅の疲れを労う言葉がけをしたかったのですが、自分の語学力ではままたらず、これからの一週間が不安になりました。

そんな中で自分のアンバサダーと顔を会わせたら、これまでのモヤモヤが吹き飛んでしまいました。ピンクの髪、天真爛漫、さっぱりした気性のライサと、彼女を包み込むようなやさしい笑顔の夫ゲナディス夫妻との一週間はあっという間に過ぎていきました。

今、あの時のアルバムを見ていると、いろいろ思い出されます。アンバサダー、ホストはそれぞれの受けとり方で、成果は違ってくると思いますが、ホストの側から言えることは、自分が交換を楽しみと感じられるなら、相手にもそれが伝わるような気がしました。それを信じて交換を続けていきたいと思いました。

会員の皆さんの自覚と努力により、ラトビア受け入れが無事に終わったことに感謝します。ありがとうございました。



ホストと対面したアンバサダー

初めての受け入れ

さいたま市 矢作 保子

ラトビア? まずは地図にて所在を確かめた。我が家はカップルの受け入れを承諾したが、アンバサダーからのメールと添付写真を見て、彼は身長190cm、体重は120kg以上もありそうな巨漢な方、奥様は172cmとやはり背の高い、美人な方!一瞬、ベッド、お風呂、トイレは大丈夫かしらと不安がよぎった。

受け入れ当日少々緊張気味ながらも、これからどんな楽しみが展開していくのかとワクワクした気持ちで迎え入れた。ラトビアのメンバーは日本文化・伝統のお茶、お花、着物の着付けを体験でき、とっても感動していたようだ。フリーの日にはいろいろ楽しい計画を立て、鎌倉では彼が大仏に似ているので「ラトビアブダ」とニックネームがつくほどに打ち解け、語り合い、歌やゲームにて大いに親睦を深め合いました。

初めての受け入れを通し、多々反省しなくてはいけない事も学び、今後の活動に役立てたいと思います。

親子3人のアンバサダー

武蔵野市 岡田一夫

我が家のアンバサダーはウルディス、ヴィタ（共に50歳）のご夫婦と14歳のお嬢さん、イエヴァの三人。とても話し好きの家族で、大宮から吉祥寺に向かう車中では話が弾んでしまって、アツという間に我が家に到着してしまった。大の旅好きで、FFに入る前もヨーロッパ諸国をあちこちと旅行の経験はあるとのことだが、2000年にFFに入会してコロラド受け入れ、ニュージーランド渡航、去夏はファレル（ドイツ）受け入れなど、活発に活動を始めた一家であり、我々夫婦と話の尽きないアンバサダーであった。

我が家について小休止、遅い昼食のあと、長旅の疲れも見せず井の頭公園を散歩して吉祥寺の繁華街を見学、後日自分たちで買い物が出るよう、下調べを怠らなかった。翌日の東京観光はやはり仲見世が興味の中心で、あれこれお土産選びに時間を費やしていた。

文化体験の日、吉祥寺で三人と別れた。午後9時過ぎにタクシーで帰宅したが、思うままに夜の繁華街を楽しんだようだ。

土曜日はフリーデー。ロシア語を話す姪の案内で日の出桟橋から船に乗ってお台場見物、フジテレビ展望室から眼下のウォーターフロントを俯瞰してFantastic! 帰路「ゆりかもめ」の最前部座席に座ってレインボーブリッジを渡ったときは大はしゃぎであった。新橋から銀座4丁目まで散歩、築地本願寺と場外市場を見学した後、勝鬃橋から佃大橋まで隅田川河畔を歩き、更に都庁展望室からの眺めも長い時間をかけて十分に満喫していた。

その日の夜は、長谷川朝子さんが応援に来てくれて、再び茶のセレモニーや半紙に自分の名前の当て字を筆書きして楽しんだ。日曜日は青笹さんご夫婦と小高雅子さんに川越を案内していただき、帰宅するなりGreat! の連発、よほど楽しい一日であったようだ。

月曜日は朝早くから山中湖へ。さいわい曇ひとつない快晴に恵まれて、富士山の全容や富士を借景にした忍野の庭園のすばらしさを楽しみ、夜はTDLで大興奮、帰宅は午前0時を回る大忙しの日であった。

特にウルディスは何事にも興味津々、我が家の先祖・由来までも尋ねられて、慌てて過去帳を取り出して説明する羽目になった。

4月末には家内が2000年10月にお世話になったハミルトンクラブのご夫婦が我が家に泊まってお互いに旧交を温めあった。この楽しみもFF会員ならではものど確信している。



Asia-Pacific Festival

佐藤 ゆきえ

1984年5月東京で初めて開催されたAsia-Pacific Regional Conference(アジア・太平洋地域会議=通称アジア大会)は回を重ねてきましたが、2003年5月、ニュージーランドでの大会で、Asia-Pacific Festivalと名称を変え、2年毎の開催と決まりました。そしてすぐに2005年5月8日~12日、オーストラリアのニューキャッスルにて開催と発表され、そのとき以来、ニューキャッスルクラブの友人から是非参加するようにとのお誘いを受けていました。日程が埼玉クラブの受け入れプログラムと重なる予感がありましたが、意を決して参加を申し込みました。案の定、受け入れの時期と重なってしまいましたが...

Festivalにはイギリス、アメリカ、日本、タイ、ニュージーランド、そして地元オーストラリアの6カ国から109名が参加し、その内日本からは31名(愛知3、福岡11、宮城3、新潟5、埼玉1、東京7、西東京1)でした。

「ワインと波」をテーマとしたFestivalは歓迎のケテルパーティーで幕が開き、文字通り会員同士の交流を目的とした観光の毎日でした。第1日目は市長のレセプション、市内観光、風光明媚なマクォーリー湖のランチクルーズ。2日目はワイナリー訪問。

ニューキャッスルは有名なハンターバレー・ワイナリーへの入り口に当たる街です。私たちは3ヶ所のワイナリーを訪れましたが、最初に訪れたワイナリーでは朝の9時半頃から6種類のワインを一気に試飲しました。私はとても気に入ったワインが見つかりましたが、後の道中を考え購入をあきらめてしまいました。しかし後で探しても街のリカーショップでは見つからず、後悔しています。

第3日目はPort Stephensでのイルカ・ウォッチングでした。Port Stephensはオーストラリアでもイルカ・ウォッチングで有名な観光地です。湾を出ると数頭のイルカが泳ぎ回る姿があちこちで見られ、皆で歓声をあげました。あっという間に過ぎてしまった4日間でしたが、各国から参加してきた友人たちとの再会を楽しみ、新しい友人との出会いは、交換とはまた違った趣がありました。

ただ、このFestivalはアジア大会に変わるものですが、これまで毎回のように顔を会わせてきたアジアの人たちの顔が少なかったのは非常に残念でした。閉会の席上で次回、2007年度は日本での開催と発表されました。

事務局注：2007年は愛知クラブ担当での開催と決まりました。

特集 イギリス渡航 No.1

交換を終えて

交換委員長 堀内 美紀子

渡航直前まで、ホスト先の変更があり心配していましたが、アンバサダーの皆さんがそれぞれに楽しい交換と体験が出来、無事終えたことに安堵しています。

一週目のハードフォードシャーではお天気に恵まれました。ロンドンに近いクラブでしたが、会員が広範囲に在住しており、全員集合の行事のときは片道2時間もかかる方などがいて、とても大変そうでした。ホストされていない会員が何度かに分けて夕食に招待し

てくれたり、誕生日会に招待してくれたり、ボトトラックの時の料理担当をしたり、会員同士が助け合っている印象を受けました。

Black
Cuntry
Museum

へは、知人、

友人、親戚に声をかけ老若男女総勢 60 名のバス旅行となりました。昔の学校教室体験では笑いがあり、とても楽しいひとときでした。英国王室の居城である Windsor 城にはミニバスで行きました。また、自分たちだけで電車を乗り継ぎ、地下鉄、二階建てバスを利用し、ロンドン観光をしたのも良い思い出です。

移動日は 5 人の仲間と別れ、クリバランドカントリーへ 4 時間少々のバスの旅となりました。イギリスの田園風景を眺めながらですので時間を感じず、新しい友人たちとの対面でした。

湖水地方 Bowness へのバス旅行は、車窓で緑いっぱい風景を楽しみ、散策の時は雨に降られ残念でしたが、あの有名な絵本「ピーターラビット」の世界だと思っただけでも満足でした。北イングランドの古都 York へのバス旅行先では、散策、買い物のお天気も良かったのですが、次の Market Town of Helmsley は集合時間に稲妻と雷が鳴り、発車して間もなくどしゃ降りとなり、途中心配しながら帰路につきました。次の朝のニュースでは Helmsley は大洪水となり行方不明者が出たほどの水害に見舞われており、あと少し遅い出発でしたら帰れなくなっていたようです。

フリーデイの時は、ホストの案内でキャプテンクックとドラキュラの故郷 Whitby へ、デイホストの案内

で Durham に行きました。彼女のアイデアで、この地が聖者に選ばれた聖地であることの由来を大画面の映像で説明を受けた上での見学でしたので、より一層ダラム大聖堂に感動しました。何処へ行っても街全体が絵のような美しさなのは、古いものを大事に使い、新しいものも周りの調和を考えて建てられ、生活しているからでしょうか。

私の二週目のホストは ED であり、会長でもあったので、お互いのクラブの活動についていろいろ話げできました。日ごろ感じている英語力の必要性を、一週

目のとき気になりだしていたので、彼女に相談してみました。その中で、たとえ語学力がなくても努力の仕方によって解決できるということを再確認できました。そして

「いつでも待っている」と何度となく言われたことが嬉しく、友情が深められたことを感じ、私なりに有意義な一週間となりました。

最後にホストの皆さんからも「とても良いクラブを迎えた」と言っていた際には感激しました。これもアンバサダーの皆さんひとりひとりが、ホストと共に心から交流を楽しみ友情を深めたからだと思えます。

文化、習慣の違いを再認識

さいたま市 新井 ミキエ

はじめて参加させて頂き良い経験をさせていただきました。英国の古き良い家庭の、模範のようなお宅の、ご夫婦だけの家庭でした。78 歳のご主人の、祖母の方が使ったという食器を 1 回、グラスの最高級のものの一回とか、テーブルクロスを変えて接待してくれたのは、私たちがカレーライスを作った日のことでした。

バレーのチケットやコンサートのチケットをとってくれたお礼に赤のバラと白のゆりの組み合わせの花束をプレゼントしたところ、英国では特別な組み合わせで、決して病院には持って行けないと教えてくれました。日本の国旗は赤と白でハッピーな組み合わせだが、ダイアナ妃が来日した際、セットしたテーブル花を赤



ティーパーティーに集まったホストとアンバサダー

特集 イギリス渡航 No. 2

は赤だけ、白は白だけに生け変えさせたという話は有名だそうです。

私の感謝の意は充分解ってくれ、花はどれもかわいいと言ってくれ、私のカルチャーショックもおさまりました。花仲間に良いみやげ話ができ、また、きちんと説明してくれてありがたかったと思いました。

お天気と人情と風景に恵まれ、健康的に交換が出来たことと、FF委員会の皆様のご準備の大変さにお礼と感謝をします。

ホストの気遣いに感謝

川崎市 池田 尚子

今回の渡航はホスト先の暖かい受け入れ方で、随分穏やかな気持ちで過ごすことが出来、これからの受け入れを考える際のお手本にしようと思いました。

当然言葉の壁はかなりありましたが、理解しようと努力して下さったこと、私の興味ある話題を引き出してくださったことです。言うまでもなく興味のあることであれば単語が分からなくても、ある程度は想像力を働かせることができ、口を開く回数も多くなるような気がしました。また、長い歴史を感じ、今その場にいる自分に少々興奮しながら、ホストの適切で分かりやすい説明を受け、とても時間をかけて回って下さったことは、本当に嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

反面、私の反省点はホストと、一緒にステイした友に迷惑をかけてしまったことです。私のクレジットカードがATMに入ったままになり、結果的に半日も費やしてしまいました。個人旅行ではないので、予め必要な分をきちんとポンド札を用意すべきだったと、大いに反省しております。天候にも概ね恵まれ、よい渡航でした。お世話して下さった方、ありがとうございました。

ホストとともに涙

さいたま市 稲垣 洋子

体格が良く丈夫なシンシアの夫が、ちょっとした風邪がもとでガンを宣告され、衰弱していき、わずか6週間でなくなった話をしてくれたとき、シンシアの辛さがひしひしと伝わり、私も一緒に泣きました。家族や友達の支えで明るさを取り戻したシンシアは、本当に強くすばらしい人だと思います。

私にも大切な家族や友人がいます。そして、さらに友達の輪を広げる出会いを与えてくれるFFに参加してよかったと心から思います。



手作りのケーキやサンドウィッチでのおもてなし

英国人は思考が保守的

蓮田市 岸田 正二郎

今回に限ったことではないが、異なった文化、習慣に接し、その根拠や由来を知るとは非常に興味深いが、外国語(英語)が不得手な自分には説明を受けてもよく理解できず、また、その逆に当方の話を理解してもらえないことが沢山あり残念に思う。

英国は自分が考えていたよりもずっと思考が保守的(よく言えば古いものを大事にする)国民性であると感じた。そこは日本人とは逆だと思うが、反面、日本人の謙遜、奥ゆかしさに似た感情を持っていることを強く感じ親しみを持たた。

風景の美しさに心休まる二週間

蓮田市 岸田 節子

それぞれ心に残る旅でした。英国では何処に行っても歴史の深さ、重さ、大きさを肌で感じ圧倒されました。また、緑がとても多く、丘のあちこちに放牧されている牛、羊、馬、絵を見ているような心休まる二週間でした。

2,3百年前に建てられた家が、今も手直ししながら実際に使用されているとのこと、日本では考えられないことです。散歩の途中で立ち寄った喫茶店が1600年代に建てられ、そこで楽しんでいる家族や老人グループ、若いカップルなど、多彩な人々の世代を超えたつながりを垣間見て、うらやましさを感じました。生活は思いのほか質素で自分を省みて、反省すること大です。オックスフォードの滞在先で、自分の英語力のなさを嘆いたとき、ホストから「自分も日本語はまったく分からないのだから気にしないで」と言われ、ホストの優しさと謙虚さにふれた思いでとても嬉しく思いました。

一週間の休暇をとって受け入れてくれたマーチン、ドロシー夫妻、元気いっぱい“B & B”を経営されながら受け入れてくれたエルシーさん、ありがとうございました。この感激を次の受け入れに生かしたいと思っています。

特集 イギリス渡航 No. 3



庭でゲームに興じる両会員

たくさんの愛に感謝

さいたま市 郡山 育子

フレンドシップ・フォースという名のもとで気負いなく英国の方々とは交流し、たくさんの愛をいただき、ほんとうに感謝しています。

改めて、相手の文化を素直に受け止め、こちら側の文化を理解していただいて、コミュニケーションが計れることを感じました。

お土産の件では少し分悩みましたが、日本人の文化をお持ちすることが喜んでいただけることだと、花笠音頭をもう少し練習してお披露目したかったなと思っています。

訪問にあたりさまざまな準備に携わった方に感謝いたします。

自分達の生活ベースを守るホストに感心！

さいたま市 児島 英子

私たちはオックスフォードでのステイでした。Jenet は去年ご主人を亡くしひとり住まいでしたが、彼女の家の近くには三人の子ども達家族、親戚がいて Big Family でした。

娘さんの家で家族の見ている中、馴れない包丁を使い、少しこげたお好み焼きができましたが、家族全員残さず食べた時は“ホッ”としました。

私たちの部屋には電気ポット、紅茶、ビスケット類が用意されていて、朝早い私たちは窓から美しい田園風景を見ながらゆっくりとお茶をしました。

Afternoon Tea ではなく、Early Morning Tea の一週間でした。

二週目は運動の大好きなご夫婦でした。Alan (ご主人) のテニスを見に行ったり、Veronica のガーデニングを手伝ったり、普段の生活そのままを見ることができました。

自分たちの、毎日の生活を変えることなくホストができる二人に感心し、羨ましさも感じました。

F F 交換の醍醐味を満喫

結城市 近藤輝武

我々の渡航参加は4度目である。過去それぞれに感動を得てきたが、今回が最も F F の主旨に沿った旅になったと思う。単なる観光旅行では味わえない多くの現実を体感した。

先ず第1に日本でよく耳にするバックヤードとガーデニングという言葉である。第1週、第2週のホストの家や会食に呼んでくれた各家には、家の前に駐車場と前庭、更に裏にはより広い、よく手入れされた芝生と花木を備えた庭があり、ここが日光浴や他の寛ぎの場所となっていた。TV で見るのとちょっと違うイメージを持ったが、バックヤードとガーデニングの真の意味が理解できよかった。残念ながら我が家には小さな前庭しかないの、これで多少の真似をしてみようと思っている。第2は同じく日本でも聞いたことのあるフィッシュ アンド チップスである。ブラックカウティーやウィットビーのレストランで食べたアレ！思い出だけで満腹になるアレ！これが本当のあれで、日本ではとてもお目にかかれぬものを十分に満喫させてもらった。

次にホストの趣味について、まず1週目のフランクさんは多趣味な方で、昔はマッチのラベルを収集(日本の明治、大正期のものを含め5500枚)し、今はベル、人形、皿等、まるで家中がミュージアムの様であった。またウクレレと自作のコードノートもあった。これは何と1938年製で、私の生まれた翌年にはウクレレを弾いていたことになる。もちろん話も弾んで楽しい時を過ごした。2週目のビル、マーガレット夫妻はダンスが好き、キャリア40年以上で今も週2~3回のレッスンを受けているとのこと、我々も滞在中朝に夜に3日間ダンスのステップを習った。またダンスパーティーの翌日も早朝より夫妻の個人レッスンを見学させてもらった。これは貴重な体験であった。ここでもまた同じ趣味の話が弾んで、楽しい時を過ごすことができた。おみやげにマーガレットのダンスシューズ(妻にピッタリ。ビルが磨いてくれた)をもらってしまった。

今回はまだまだ色々な思い出がたくさんあり、大変満足な F F 渡航であった。最後に E D 及び副 E D のご努力に感謝する。

強い F F の信用度

さいたま市 岩崎 倉子

フレンドシップ・フォースの信用度に改めて驚かされました。初対面であるにも関わらず、これほどまでに親身になってくださって、ありがたく思っております。

特集 イギリス渡航 No. 4

ホストのパワーに圧倒

結城市 近藤 文子

4回目の渡航はヨーロッパ、イギリスは町並みを美しく保つために大変努力している。どの家も裏庭が美しく、さすがガーデニングの国と感心させられた。また、今でも歩いて郵便を配達していることにも驚いた。

一週目のホスト、フランクは81歳、2週目のホストビルとマーガレットは60歳代、どちらも自分たちの生活を心から楽しんでいて、そのパワーには圧倒された。フランクは切手、人形、ベルの収集が趣味で、いたる所にそれらが飾ってあり、地震国日本ではとても考えられない。いつもニコニコして私たちを世話してくれ、とてもありがたかった。ビルとマーガレットは大のダンス好き、お蔭で私たちもダンス漬けの毎日。夜練習、午前復習、個人レッスンに行く時も連れて行って見せてくれ、家でまたビデオを見せてくれるといった具合、おまけに私の足にピッタリのマーガレットの古いシューズを、ビルがきれいに磨いて持たせてくれた。2年後日本で開催されるFFフェスティバルで再会できそうだ。それまでに少しくまくなるだろうか。これではいやでも練習しなければ...

私もマーガレットのように年令を感じさせないようにしたいと思う。とても楽しい二週間だった。



コッツオールズの家並み

オックスフォードの田舎で

春日部市 坂本 登喜子

「あなたたちがお天気を運んでくれた」とのホストの言葉どおり、お天気に恵まれ幸いでした。

オックスフォードの田舎の古い家にステイできたことはラッキーでしたが、集まりの会場まで2時間もかかり、車での送り迎えも大変だったと思います。パーティーはとてもシンプルで色々なゲームが用意されていて楽しめ、食器等は自分たちの分のみ持参というのは、ゴミを出さないという点では真似したいと思いました。一週間本当に楽しい旅ができ、感謝です。

対照的だったホームステイ

蓮田市 鈴木紀子

ハートフォードシャの私のホストは一人暮らしの男性、TFFに入って僅か半年、初めて受け入れをされ期待も大きかったようだ。早々のe-mailでご案内する所は沢山ある旨、いろいろ提案してくる。料理は達人ではないけれど最善を尽くしてみる等、ひたむきな気持ちがお会いする前に伺えました。ステッキを持って近くの公園を一緒に散歩した姿は温厚な英国紳士そのものでした。ただ残念だったのはFarewell Partyに参加しなかったこと。彼は一転、行く間際に取り消した。理由は解からないけれど、会話の中で“Bad Organization”今でもあの様相が忘れられない。

クリバランドカウンティでは、手紙のやり取りをしたホストは渡航間際に変更され、一人暮らしのTFF 20年以上の、経験ある女性が私のホストでした。閑静な住宅街から離れた、重厚な古い教会が際目立つ村に彼女の家がありました。ホスト以外の家庭をあまり行き来しなかった前週に比べて、Day Hostを含めて多くの方と接することができました。夕食にかわるがわる呼ばれ夜遅くまで、言葉は理解できない部分が多々ありますが、飲み、食べ、笑い、とても楽しい一週間でした。このクラブはグループで役割分担し受け入れを実践しているようでした。

普通の旅行では決して体験できない英国国会の下院議会の傍聴。厳粛な重々しい雰囲気、三度のセキュリティチェック、手荷物すべてを取り上げられ、ようやく席へ。消費者カードについて討論されていました。

また、ガイドブックに載っていないBlack Country Museumの坑道探検は、ボーイスカウトの子供たちに体験させたい場所です。生活協同組合(co-op)、ボーイスカウト運動の発祥の地はイギリスなのです。私にとって関わりの深い国の2つのクラブに参加させていただき、より身近になりました。ありがとうございました。



Yorkへバス旅行した際にくつろぐ両会員

特集 イギリス渡航 No.5

欧米人はタフ!

さいたま市 沼 純子

私はこれまで何度かイギリスに行きましたが、北イングランドは初めてで、雨にけぶる湖水地方、古都ヨークやダラム、キャプテンクックゆかりのワイトビー、ステイ先のヤームなど、趣のある美しい各地が印象に残りました。

ロンドン・アイ(大観覧車)など、ロンドン市内をホストの引率なしで回ったのも楽しい思い出です。日本で受け入れをした際にアンバサダーが時には自分たちだけで行動したいという気持ちが分かる気がしました。

いつも渡航の際に感じるのですが、今回も朝から晩までスケジュールがびっしりで、FFのホームステイはちょっと忙しすぎる感じがします。ステイ中の家の近辺をゆっくり散策したり、自分で買い物したりできるフリータイムがもっとあるといいなと思います。

それにしても欧米の人たちのタフなこと!

「日本人はあまり食べないからスリムなのだ」と言われましたが、今回出会った中にはスリムな人たちもいましたから、そういう人たちは良く食べて、よく体を動かすのでしょう。夜が更けてくると頭もボーッとできて、延々と続く会話に相づちを打ちながら、内心早く帰りたいなと思っている私。今後海外の人たちと堂々と渡り合うには、心身ともにもっとタフになる必要があると改めて感じています。



Yorkの城壁

ホストは温厚な英国紳士

さいたま市 細瀨真砂子

ロンドンを訪れるのは三度目でした。私たちのホストは二年ほど前(2003年)に妻に先立たれた老人でした。早くからのメールの中に、12年間連れ添った妻をガンから救うことができず、とても淋しいこと、そしてFF入会のメインリーズンがそれであると伝えてきました。老人の一人暮らしの侘しさを想像し、思いは

複雑でしたが、会ってみると温厚な英国紳士。私がロイヤルオペラハウスへ行ってみたいと言うと、時折出かけているとのこと。家の中にロイヤルフェスティバルホールチケットがあったりして、生活を楽しんでいる様子でした。さぞお疲れでしょうに、私たちを終日案内してくれたご好意には頭が下がります。どうぞこれからの人生が平穏であっていただきたいと願うばかりです。

6月23日にはメールがあり、私たちが去った後風邪をひいてしまったとか。でも今は元気のように、ミュージカル“MAMMA MIA”を予約したとか、ホッとしました。それに「本を読むのが好き」と言った言葉を記憶していたのか、今度読み始めたら“You must tell me what you think about it”と書かれてしまいました。母国語の他にドイツ語とフランス語を話すというこの英国紳士からとんでもない宿題をいただいてしまったようで、これからの対応が苦慮されます。亡き妻(ユダヤ人)はいつも沢山の本を読み、テルアビブ大学からの法律の学位を持っていたとか。そしてドイツへは決して行かなかったとか。思い出を時折話してくれたやさしい声が思い出されます。

さあ、今度は私の方から宿題を出す番、どんな風にしようかと考えあぐねているところです。楽しかったロンドンのstayでした。

すばらしい日々

さいたま市 細矢 康子

「あなたが滞在する間は、暖かく天気の良い日が続きます。お元気でお発してください」とのメールが前の晩に入っていて、いよいよ出発!

その通り良いお天気の連続。カラッとし過ぎで、帰国したらお肌の心配も...

ダイアナは8年前から猫との二人?暮らし。3年前に東京と愛知を訪問して「飛驒牛」と「日本のコスモス」は忘れられないとのこと。

思い描いていたよりもずっとすばらしいイングリッシュガーデン。趣味の良い物に囲まれた部屋、素敵、素敵の連発。

さあ、ホームステイの始まり。「昨夜はよく眠れた?」滞在一日目の不安な私を、その笑顔が吹き飛ばしてくれました。拙い英語にも一生懸命に耳を傾け、家族のこと、FFのこと、日本のことについて理解しようと務めてくれました。

St. Albansの大聖堂まで歩いていける距離で、緑と歴史的な建物に囲まれた街でゆったりと、すばらしい日々を過ごしました。

「イギリスの食事はおいしくないわよ」と言われていましたが、メニューも健康に気を遣いながら、おい

特集 イギリス渡航 No.6

しいお料理を作ってくれました。

フェアウエルパーティーでの私たちの「花笠踊り」に後姿をリクエストされたのにはびっくり！納得？

楽しかった一週間もアツという間に終わり、私たち4名は泣く泣く皆様とお別れ。

40名ほどの会員のクラブでしたが、80才の独身男性がアンバサダーを受け入れたり、お料理の得意なジーンは三回に分けて私たちをディナーに招いてくれたりで、会員同士の協力が感じられるクラブでした。

学生とのふれあいに刺激

さいたま市 村田 佳代子

一週目にはオックスフォード大学に連れて行っていただき、ホストの友人の方に詳しく説明していただきました。大学は街全体にキャンパスが広がり、歴史を感じる石造りの建物は日本の大学とは異なり、とても驚きました。街にはたくさんの学生が買い物などして、ちょうどテスト期間中だったため、正装してテストを受ける学生や、テストを終え騒ぐ学生も見ることができました。

また、Black Country Museumでは、大学生や中学生に接する機会があり、イギリスの学生生活などを聞くこともでき、良かったです。

この大学見学や現地の学生と接した経験は、学生の私にはカルチャーショックにもなり、よい刺激にもなりました。この経験をこれからの大学生活にも生かしていきたいと思います。

一人合点をしないことが私の反省

川口市 綿部 恵美子

私は一週間のステイなので、ほんの一部のイギリスを見ただけだと思いますが、特に緑の美しい6月に行けてラッキーでした。各家のガーデン、町の景色がきれいでした。また、何処の家(5軒訪問できました)の中もすてきでした。センスがとてもいいのです。

行く前のワークショップでは、ほんの事前の知識で、行ってみてからのびっくりもありで、それはそれで楽しかったです。ホストとは気持ちもちろん通じ合えたと思っていますが、英語力があればもっといろいろ話し合えたかなとも思います。

反省は自分だけで思い込まないで、きちんと毎日の行動を、納得のいくまで確認することが大切と思い知りました。最初もっと言ってくれればと思ったのですが、聞かなかった自分がいけないと反省しましたが、それでも周りの助けで、順調に楽しく交換を終えることができました。ありがとうございました。



好評だった花笠音頭の様子を絵手紙で

もてなしの心を感じて

北区 高畑 美千子

第一週目は独身女性宅でルームシェア、第二週目はご夫婦のお宅に単独ステイ。それぞれ趣があって、とても有意義に過ごせた二週間でした。

遠来の客をいかに楽しませるかということに知恵を絞るのは、私たちも同様にやっていることですが、最後の最後まで、あれ程手を抜かずに自分にもできるだろうかと思わずにはられませんでした。

ボブさんが「ミチコは疲れているみたいだ」と言っているのを人づてに聞き、そんなことを感じさせた自分を臍甲斐なく思った最終日でした。

楽しんだ多くの出会い

さいたま市 野澤 明子

ちょっとした勘違いから、笑いで始まったホストとの劇的な？対面。毎夜すべてのアンバサダーのために夕食を用意したり、自分の誕生パーティーに招待したり、一日バスツアーの案内、家族総出の参加など、協力しい活動を楽しむ会員の方々との出会い。

英語力不足からくる心配もFFの精神は「これ」と訴えた気持ちは“English may have been limited but communication was fantastic”の会長の言葉で、滞在中の好天気のように快晴でした。

お知らせ

第29回世界大会

今年の世界大会はブラジル・サンパウロにて開催されます。サンパウロは、国際色豊かな社会を反映した活気ある文化で知られています。世界で4番目に大きいこの都市は、ブラジルの経済と文化の中心地です。

しかしその中核をなすものは、惜しみないもてなしの精神でFFの世界でも定評のある、そこに住む人々です。是非第29回世界大会に参加して、このブラジルならではの友情を体験なさってください。

期日：2005年11月3日(木)～6日(日)

場所：ブラジル・サンパウロ

Grand Melia Hotel

費用：

登録料	US\$500.00
市内観光	\$ 20.00
ホームステイ(11/6 - 11/10)	\$160.00
ツアー(ヴェノスアイレス)	\$550.00

申し込み先：

Conference

Friendship Force International
34 Peachtree Street, Suite 900
Atlanta, GA 30303 USA

Email: conf@friendshipforce.org

世界大会の案内及び申込書はFFのウェブサイト
www.friendshipforce.orgから取り出すことができます。
参加される方は、各自お申し込みください。
ただし、その旨事務局にもご連絡ください。

バザー売り上げ報告

5月3日 - 4日

合計 150,467円

お天気にも恵まれ、冷茶もあっという間に売り切れ、なまめる茶販売と書き換えなくては?いけないほどでした。追加購入のために何度も仕入れに飛び回ったり、ヨーヨー作りに指先を腫らしたり水浴びをしたり?? いろいろハプニングもありました。会員の方々からの提供品も、プロ顔負け?の助っ人のお蔭で売れました。提供品、寄付、当日のお手伝い等、ご協力ありがとうございました。



バルセロナ(スペイン)在住の増田信枝さんから
次のような便りが届きました。

スペインからご報告

こちらは、毎日真夏の太陽が照り付けています。今日からは7月、夏のバーゲンが一斉に始まります。ブランド品が、国内では考えられない値段になるらしく(残念ながら私には良くわからない)興味のある方は、お目当ての店に開店前から並ぶようです。今日は住んでいるマンション(1階に4軒で3階建)の庭にみんなで集まり会食です。ちらし寿司を作るつもり...乾燥レンコン・干し椎茸・缶詰筍...なんでもあります。言葉が解からないのが残念ですが(なかなか難しい)そこは、笑ってごまかすいつもの手で乗り切ります。英語の話せる人は多いです。皆さん親切に易しい単語を並べてくれます。さて、どんなことになるか...。また報告します!

増田 信枝

【新会員紹介】

下記の3名の方々が入会されました。(敬称略)

百名 良子

さいたま市

趣味：コンピューター・英語

石井 元子

さいたま市

趣味：料理・旅行・映画鑑賞

西村 純枝

さいたま市

趣味：料理・旅行

【カウアイ受け入れ中のプログラム】

10月1日(土)	アンバサダー到着
10月2日(日)	ウエルカムパーティー
10月3日(月)	東京観光(オプションル)
10月4日(火)	Free day
10月5日(水)	バス旅行
10月6日(木)	日本文化紹介
10月7日(金)	Free day
10月8日(土)	新幹線で大阪に移動

カウアイ受け入れが迫ってきました。友人との再会を待ち望んでいる方も多いことでしょう。クラブ全体で温かく迎えたいと思います。上記のようなプログラムが組まれましたが、改めてご案内が届くことと思います。今からスケジュールを調整してご参加ください。



CLUB CALENDAR

8月6日(土)	定例理事会 10:00	生涯学習総合センター	講座室1
	カウアイ交換委員会	13:30	講座室3
9月10日(土)	定例理事会 10:00		講座室2
	カウアイ・ホストワークショップ	13:30	8F和室
10月1日(土)~8日(土)	カウアイ受け入れ		
10月15日(土)	コトブス会員埼玉立ち寄り		
10月22日(土)	定例理事会 10:00	カウアイ反省会	13:30
11月26日(土)	定例理事会 10:00	関東ブロック会議	13:30

【理事会よりお知らせ】

埼玉クラブと渡航、受け入れ、そしてカーンカウンティーでの合同ステイ等、長年にわたり交流のあるドイツ・コトブスの友人たちが、熊本、三重の交換の後、埼玉の友人たちを訪ねたいとの連絡がありました。日程は10月中旬です。詳細については後日お知らせいたします。

2006年度の交換が決まりました。

受け入れ 2006年4月上旬

Salisbury (Australia) E Dを選出中です。

渡航 2006年9月上旬

Huntsville (Alabama)

Louisville (Kentucky) E D 稲垣洋子氏

今年度の関東ブロック会議は11月26日、埼玉クラブの担当で開催します。

12月4日(日)クリスマスパーティーを予定しています。

青笹安弘氏が理事を退任し、近藤輝武氏が新理事となりました。



編集後記

皆さんの記事から楽しかった交換が目につかびます。カウアイの受け入れ準備も始まりました。多くの方々の参加を待っています。

Cooking

ウインザー城やロンドンへの一日観光の時、ランチボックスの中にいつも入れてくれた手作りのケーキを、早速作ってみました。楽しかった交換を思い出し、お土産に持たせてくれた紅茶で、ゆっくりとアフタヌーン・ティーを味わっています。是非挑戦してみてください。 綿部 恵美子

Fruit Cake by Pauline Spendlove

材料：水1C、砂糖1C、マーガリン8oz(225g)
ドライフルーツ12oz(340g) 重曹小さじ1
ミックススパイス・ジンジャーパウダー・シナモン少々 小麦粉2C、ベーキングパウダー小さじ1 卵2ヶ

作り方：鍋に水、砂糖、マーガリン、ドライフルーツ、重曹、スパイスを入れ、弱火にかける。沸騰したら10分間ほど煮詰めた後冷ます。冷めたに割りほぐした卵を1ヶずつ加える。にベーキングパウダーを混ぜた小麦粉をふるいにかけて後加える。を型に流し入れオープンで焼く。160度15分、150度に下げ2時間。

注：私はマーガリンの代わりにバター100g、ドライフルーツ280g、ミックススパイスはオールスパイスで作りました。オープンによって焼く時間を調節して下さい。2時間では焦げてしまいました。

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局
〒331-0823 さいたま市北区日進町2-1367-1-203
TEL: 048-651-8144 FAX: 048-651-8144
発行日 2005年7月28日 第64号